

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700450		
法人名	企業組合 巣南グループホーム		
事業所名	グループホームすなみ		
所在地	岐阜県瑞穂市古橋1357番地1		
自己評価作成日	平成22年11月12日	評価結果市町村受理日	平成22年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170700450&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中でこの地域の方々との馴染みふれあいながら生活しています。代表者夫婦はじめ職員も地域住民がほとんどで地域のお祭りや運動会に参加したりし自然にとけこむことができています。人数が少ないため個々の要望にゆったり向き合うことができます。職員も変動がなく、家族のようにいたわり合うことができます。ホーム前の畑で採れた新鮮な野菜が毎日の食卓を彩ります。散歩の途中に顔なじみの地域の方と立ち話をしたり、ご家族や地域の方がホームに立ち寄り一緒にお茶を飲みお話をしたりゆったりと時が流れます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設9年目を迎えるこのホームは、住み慣れた地域で高齢者の生活全般をケアしたいという代表者夫婦の情熱により、周囲の協力者を求め、出来上がったグループホームである。地域住民の理解があり、ホーム自体が地域の一員として受け入れられ、自治会や小学校・保育園との交流も行われている。管理者の熱意に賛同した職員は離職が少なく、利用者の精神的な安定に繋がっており、認知症レベルや身体機能面での改善事例や排泄自立度の向上にもホームの努力が見られる。看護師であるケアマネジャーが利用者の体調を管理し、総合病院とも救急時に24時間体制の連携があり、本人と家族の安心を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域やホームの特徴にあった独自の理念を掲げ、日々の介護姿勢を再確認している。	地域の人々と馴染み、触れ合いながら「人のぬくもりが感じられる、暖かい暮らしを支える」ことなどを理念としている。理念は、ホームの目立つ位置に掲示し、毎朝、確認・共有しながら、利用者の気持ちに、ゆったり向き合うように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りや運動会に参加したり、保育園や小学校の運動会を見学したりし交流している。地域の保育園の園児も年4回ほど訪問してくれかわいい演技等みせてくれている。また、演芸レクリエーションとして地域の方とともに落語を聞いたりしている。	地元自治会と連携し、公民館活動や夏祭りなどの地域行事へは積極的に参加している。保育園児、小学校の子ども達や演芸ボランティアの訪問が多く、地域の一員として、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年 介護教室を運営推進会議を利用し開催している。また、ホームの入居者と地域の方が一緒に行事に参加したり、日々の散歩や生活の中で自然に交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には多くの地域の方々が参加していただけ、いろいろな意見や情報をいただくことができる。入居者の状況やホームの取り組み等話し合うことができている。	会議は、行政・自治会・民生委員などの地域関係者・利用者・家族が参加し、2ヶ月ごとに開催している。出席者からは、ホームの取り組みに対する意見・要望が出され、できるものから順次、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加以外にも多くの機会でご協力やアドバイスをいただいている。また、介護相談員も毎月受け入れ入居者とも交流を図っている。	市の担当者とは、定期的に運営状況を報告し、良好な関係を築いている。各種提出書類や増床に関する相談をしたり、介護相談員を毎月受け入れるなど、日頃から連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束宣言を掲げ日々のケアでの振り返りを行っている。また勉強会を開き行っているケアに問題ないか、自覚していない拘束が行われていないか検討している。	身体拘束についての意義を理解し、拘束のしないケアを行っている。無意識の内に拘束をしていないか、勉強会等において、絶えず検証し、職員の自覚を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加しホーム内勉強会で報告、検討し理解を深めるとともにホーム内で入居者に行われることがないよう職員同士注意している。入居者の様子や話をよく聞きその傾向がないか常に注意をしている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し、入居者に必要があれば紹介したり、職員の中でも理解が深まるよう説明しホーム内勉強会をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族に来訪していただき、十分な時間をとり説明、話し合い、医療に関する契約や個人情報についての契約も文書で同意を得るようしている。できるだけ分かり易く説明し質問しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族と連絡を取り合い来訪時や手紙等で問かけ話がしやすい雰囲気作りをしている。出された意見や要望は迅速にカンファレンス時に話し合い運営に反映している。また、必要であれば運営推進会議でも話し合いできるようにしている。	毎月来訪する家族が多く、その際に、本人の様子や家族の希望を聞いている。感謝や満足の声は多いが、苦情や要望はほとんどない。現在、家族が意見を表出しやすい方法を検討している。	家族の訪問で、話し合う機会が多くあるので、ホーム側から意識的に環境をつくり、さらに意見を引き出せるような取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内カンファレンスを月1回程度開催し意見が出せるようしている。また、職員の意見を把握し運営に反映できるようコミュニケーションを図っている。	管理者は、職員が意見を言いやすいよう、日常から細やかな言葉かけを行っている。職員から、利用者同士の相性などの情報を聞き、席替えなどに配慮するなど、日々のケアに活かし、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者、管理者は常に職員と接し状況把握に努めている。十分コミュニケーションをとり必要に応じ職場環境整備、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で行われる研修に積極的に参加し研修内容は研修報告書を作成してカンファレンス時に全体に報告し理解を深めている。また、職員を把握し、その職員に必要な研修が受けられることができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に所属し協会会議や研修会に参加し意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階にご本人と面談し、要望や気持ちを把握できる機会を設けるようにしている。また必要に応じ入居前の住居を訪れ、生活状況を把握し、入居お試し期間を設け不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必ず、事前にホームを見学していただき、話し合いをもち、ご家族の気持ちや本人の家庭での様子をゆっくり聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の想いを大切にし、家族の要望、現在の状況をふまえ、今1番必要なサービスを常に検討し優先し対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とともに作業したり、食事をしたりし生活する中で同じ感情の共有ができるようしている。入居者が得意の面では教えていただき一緒にできるようしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りやケアプラン更新時に入居者の様子や今頑張っていることを個々にご家族に伝え、協力をお願いし一緒に支えになっていただけるようにしている。何ができるようになり、何ができなくなったのかを、折りにふれ、お話するよう努めている。また、お正月やお盆の帰省や外出も支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が馴染みのものを自由に持ってきていただいている。また、馴染みの方に来ていただきお茶を飲みお話ししていただけるよう支援している。入居者が散歩時親戚や馴染みの方の家にもいけるよう支援している。	毎日散歩の行き返りに、顔見知りの住民と挨拶を交わしている。昔馴染みの雑貨屋や八百屋に出かけ、店主と会話をしている。また、知人や友人の来訪も多く、ホームで暮らしても、近所付き合いがそのまま続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や作業、レクリエーション時に職員も一緒に行い会話し入居者同士の関わりがうまくいくように配慮し、孤立することがないように働きかけている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方々や退居者が相談できる雰囲気作りに努めている。転出や入院時は情報を提供し同様なサービスを受けることができるように連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子、会話や表情をよく観察し把握する。困難時は職員全体で検討し本人の気持ちに寄り添うように努めている。	個々の思いや意向は、日々の会話や、表情から読み取っている。また、居室の片づけや衣類の入れ替えなどを利用者と一緒にすることによって、本人の思いや夢を拾い出している。その内容は、「申し送り日報」によって全職員で共有し、介護計画に加えることも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者や家族の話の中で生活状況を常に把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活スタイル、希望にできる限り対応し入居者一人ひとりの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時や必要時に毎回アセスメント、モニタリングし本人の想いや希望の変化を把握している。担当者を中心に全体でケースカンファレンスをし意見を交換し計画をたてている。	介護計画は、定期的な見直しだけでなく、利用者の思いや家族の希望を聞き取った際も新たに加えるなど、柔軟に見直している。職員の意見により作成された介護計画は、作成時と見直し時の毎回、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護ファイルを利用しケアの実践や気づきを記録し職員全体が情報共有できるようにしている。それをもとに介護計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の要望や状況に応じ必要なサービスの支援を行っている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域住民との意見交換を行っている。また、緊急時に備えるため、年1回以上近隣住民と防災訓練、救急法を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の病院内で希望を聞きかかりつけ医を決めている。入居時に医療に関する希望聞き文書で同意をもらい、入居しても引き続き同医療が受けられるよう配慮している。	利用者は、これまでのかかりつけ医と、ホームの協力医をかかりつけ医に変更した人もいる。基本的には、家族が受診に同行するが、有償で職員が同行することもある。救急時には、総合病院との、24時間体制の連携があり、本人と家族の安心を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に連絡をとり、相談しできるようにしている。入居者の健康管理や状況変化に応じた支援ができるようしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は入居者の支援に関する情報を提供し、できる限り職員が見舞い、医師からの説明も家族とともに聞くようにし、状態を把握し速やかな退院支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療に関する契約書を作成し入居者の想いや家族の希望を把握している。契約書は状態の変化に応じ常に再確認している。また、ホーム内でできるケアについての説明も同時に行い理解していただいている。	医療関係同意書を作成し、ホームでは終末期ケアや看取りを行わない旨を、家族に説明している。状態の変化に応じ、その都度、再確認し、関係者と共有している。重度化による医療行為が必要な利用者には、他施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に対応できるように事故対応マニュアルを作成している。また、定期的に防災訓練や救急法講習を行い、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署や地域の方々の協力を得て、消火器の使い方、避難訓練、救急法講習を行っている。また全職員で、避難場所、経路等を確認し、連絡体制を整えている。	年に2回、消防署との訓練を行い、それ以外にも、ホームの自発的訓練を行っている。住民参加で夜間を想定した訓練や、運営推進会議内でもAED(自動体外式除細動器)や人工呼吸の方法などの学習も行った。	

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報についての取り扱いを徹底するとともに、ホーム内勉強会を行い職員の意識向上、統一を図っている。	声かけやプライバシーに関しては、内部研修も行い、居室への立ち入り時や入浴時など、本人の意向を重視し、配慮している。地元の職員が多いが、親しみと慣れが混同しないよう、職員同士で日常的に確認し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢の提供や入居者の思いや希望を言い易い雰囲気を作るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩時、入居者と十分コミュニケーションを取りながら、一人ひとりのペースを大切に、それぞれの入居者の思いや状態に配慮し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装は自分で決定している。自己決定困難な入居者には職員と一緒に考え、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、食事、片付けを入居者と職員が行い、食事が楽しみなものになるようしている。	野菜の皮むきや根っこ取りなどを、利用者と職員と一緒にやっている。職員も同じ時間にテーブルにつき、見守り談笑しながら、同じ食事を味わっている。献立は、利用者にスーパーのチラシを見せ、好みを聞いて決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容、個々の食事量、水分量を記録し職員全体が情報を共有できるようにしている。栄養は一目でバランスがわかるように、肉・魚・豆類は赤、野菜・果物は緑、卵・乳製品は青とメニュー表に記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔を保つことができるように入居者の能力に応じて、見守り、声かけ、援助を行っている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者をよく観察し時間や排尿パターンを把握しトイレへの誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	トイレ誘導が必要な人には、気配や仕草から排泄リズムを把握している。利用者の希望により、布製のパットを使用し、職員の手洗いによりいつも清潔に保たれている。こまめな職員の心配りにより、自力で排泄できるように維持されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く摂るようにするとともに、散歩や体操で適度に身体を動かすことができるように支援している。自力排泄困難な方には入居者の状態を把握しより負担の少ない方法で援助できるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、本人の希望に合わせた時間で入浴できるよう配慮している。	入浴は、週3回を基本としているが、午前でも午後でも、好きな時間帯に入れるよう配慮している。入浴介助が必要な利用者にも、入浴の気持ち良さを感じて欲しいと、職員を2人配置して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整え、入居者が休息や安眠ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに整理し、服用内容が速やかに把握できるように、服用シートを作成し服用確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力が発揮できるように、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝え、張り合いや喜びのある日々を過ごすことができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を目で見て肌で感じてもらうためにも、散歩や買い物、花見等に出かけている。出かける際は、それぞれの希望を把握し、希望に沿った外出支援を行っている。	毎日のように散歩を楽しんでいる。近隣の保育園と交流し、餅つき会などで、園児と楽しい時間を過ごしている。花見や紅葉狩りなど様々な季節の行事、文化祭などにも出かけている。遠方の墓参りなどは、家族に依頼している。	

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行く際に可能な方は少額のお金を所持し自分で払ってもらうことができるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じ、日常的に本人自から電話ができたり、手紙が出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯のおいしい匂い、窓から見える野菜や果物、花等、季節を常を感じるができるようにしている。また、職員との会話も多く持ち、入居者が居心地良く過ごせるようにしている。	居間・食堂・廊下にはカーペットが敷いてあり、歩きやすく転倒しにくいよう配慮されている。庭から外へ自由に出入りでき、外気や光は思う存分、味わえるよう配慮している。トイレは、車椅子でも入れるよう設計しており、廊下にも手すりが付き、機能・安全面にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者全員が集う居間とは別に畳の居間や縁側等、人の気配を感じながら一人の時間を楽しむことができるようなスペースが確保できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用してきた馴染みの物を持ってきていただき居心地良く過ごすことができる空間作りに配慮している。	利用者の好みに合わせ、洋室と和室を選択できるよう配慮している。本人が自宅で使っていたタンスやロッカーが持ち込まれ、思い出の写真や記念の品物を飾り、自分専用の個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽やトイレ、廊下等に手摺を付け、職員全体で話し合い少しでも残存する能力を引き出すことができるように工夫し、安全確保と自立への配慮をしている。		